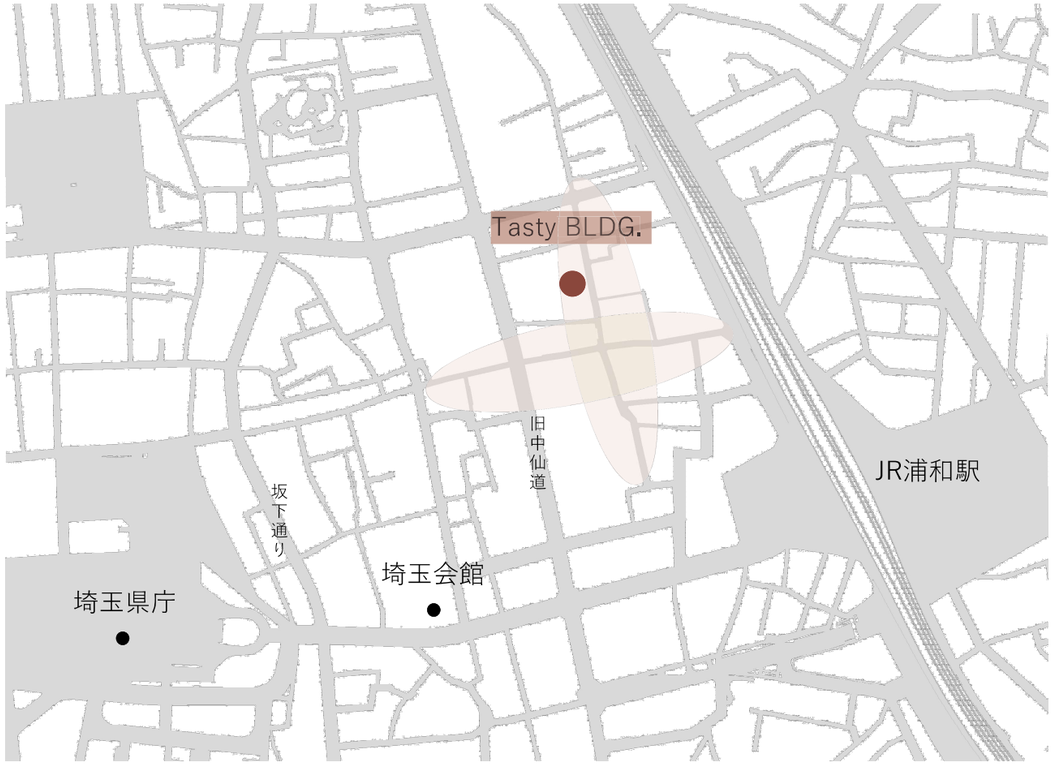
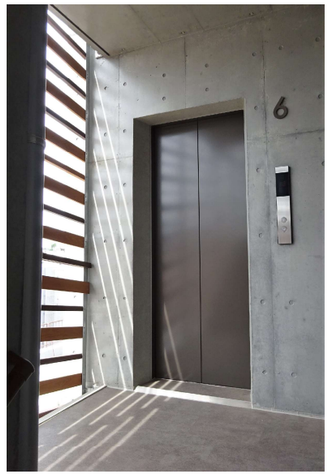
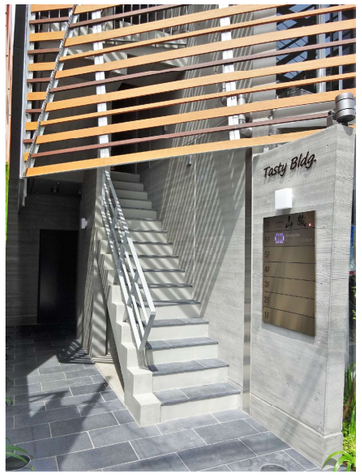
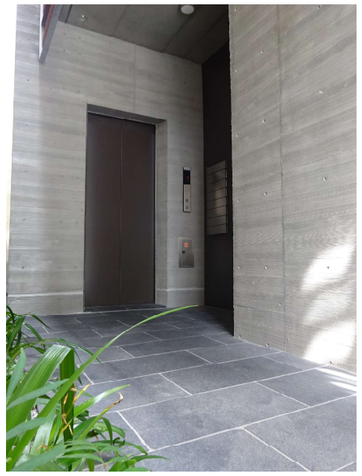
街のリビング

浦和の街は古くは関東大震災を機に人口の流入が始まり、
そして現在は公共交通網の整備を受けてマンション建設が進み、
人気の街となっている。

しかしその反面、東京への便利な街の印象が強くなっている。
埼玉県の経済、商業の中心として発展を重ね、住宅街として成熟を深めてきたが
現在は、住まいは浦和、暮らしは東京という通過性の傾向が強く、
地元性が弱まっている様相である。

改めて地元を考える。
いつもの暮らしの中の、家の近くの馴染みのお店。
プライベート性は高く、ソーシャル的で、それでありながら
街のリビングスペースのような大人のための空間の必要性を感じた。

浦和らしさを生み出すため、あえてこの地に所縁のある個人のテナントオーナーが営み
地元の人々との交流が生まれる場所となることを望み、この建物を計画をした。